

大阪労連女性部ニュース NO7 08年 5月23日

発行 〒530-0034 大阪市北区錦町2-1 国労会館 大阪労連女性部

TEL 06-6353-6421 FAX 06-6353-6420

「均等室の職員たった10人。でも企業への指導頑張ってます。」

女性部で厚生労働省労働局と大阪府商工労働部と交渉（5月22日）



（労働局交渉で説明する土田部長。前列左から2人目）

「菜の花行動」で手渡した要請書をもとに、5月22日、労働局と大阪府商工労働部との交渉の場を持ちました。

労働局交渉では主に均等室への質問が相次ぎました。「公務員削減の中、均等室も10人から8人に減らされた。今年はパート法改正の関係で2人プラスされて10人だが、来年は確実に8人になる。そんな中でも、労働相談を受けたり、

事業所の指導を精力的に行っている。妊娠・出産にかかわる退職勧奨の相談が多い。『会社に指導しましょうか?』と相談者に言っても『働きづらくなるからいいです』という答えが多く残念。』という実情も報告されました。

医労連からは「『改正パート法』の学習に均等室から講師を呼んだが、『能力』という言葉が何度も使われた。成果主義をすすめるための法律かと疑問に思った。」

自治労連からは「同じく学習会で、いろんな事例を『適用除外です』と言われたが、もっと労働者の立場に立って、『こんな風に使えますよ。』と教えてくれるべきではないのか。」などの意見が出されました。

パート部会からは「自分の賃金は60才で200万。パート法で均衡処遇と言われているが、この金額が均衡処遇と言えるのか。」ときつく回答を求める意見が出されました。

均等室は

- ・ 私たちはパート法の改正で、『女性の能力』などという言葉をつかったことはないし、そんな立場にも立っていない。
- ・ パート労働者の処遇改善については、努力したからいいのではなく、結果を出すように指導できるので、さらに強く使用者に指導していきたい。

などと回答しました。

「間接差別の事例をもっと集めて、均等法のさらなる改善をしたい」という表明もありましたので、みなさんの職場で「これって間接差別では?」という事例がありましたら、是非労連にも提起してください。交渉の場では、「自治体の臨時職員に交通費が支給されないのは、女性の職場を狭めているという点では間接差別ではないか」という意見が出されました。

また、「高校生に労働者の権利を教える機会をふやして」という数年来の要望に対して、労働局としてリーフレットを作り、高校にも配っていることが紹介されました。

「橋下PT案は弱者切捨て！」

労働局交渉に引き続き、大阪府の商工労働部へ。青年達が労働者の権利を知らないまま就職して、新採研修など、土日もつぶしてやられても問題視されない事例を紹介。労働部も「大学の先生から『労働者教育ができていない』と指摘されている。」と認めました。

「働く若者のハンドブック」を3万部作成し、就職希望者の人数分を学校に送ったり、進路指導担当の教員の集まりでは、このハンドブックを使っているのアドバイスも行っているとのこと。しかし、橋下行革であらゆる予算が削られるので、「働く女性のハンドブック」なども、配布数以上に必要な人は府のホームページからダウンロードしてもらわないと、という状況になっています。

「300人以上の大量解雇を許すな！」と運動している府立高校の臨時職員の声が朝日新聞（5月19日付）に掲載され、その文章を読み上げると、会場はシーンと。「大阪府自らこんな弱い立場の人のクビ切っているんですか。」の問いに、労働部も「知事は弁護士でも労働法はわかってないから。」と嘆かざるを得ませんでした。

2つの部局とも、1時間という予定をオーバーしての交渉でしたが、どちらも誠実な対応でした。雇用の問題の潮目が変わったと言われますが、労働者のひどい働かされ方が世間の脚光を浴びてきて、改善が求められていることが背景にあるのかもしれません。

交渉には、自治労連、大教組、医労連、生協労連、全国一般、福保労、パート非常勤部会、自治労連関連評議会など11人が参加しました。



職場で「9条世界会議・関西」とりくんでよかった！



女性部単産・地域代表者会議（5月22日）で、西淀医療労組がニュースを紹介しました。（西淀医療労組女性部は「9条の会」としてとりくみ、100人が参加）

参加者の感想から

「アジアの人が9条を守って欲しいと言っていた・・・

アジアの人から日本の憲法9条を守って欲しいと言われた事、あまり考えた事がなかった。憲法9条を他の人に伝えるよう行動し

て欲しいというメッセージを受けて、行動しないとダメだなあって思いました。」

「戦争はあってはいけない！自分なりにわかった事は、人がたくさん死んでしまう戦争はあってはいけない！ということ。すごく良い天気、淀川沿いを自転車で走ってよかったです。大阪のことを知る機会にもなったし、初めて会うスタッフの方々ともお話しできて楽しかったです。」

（ニュースから抜粋）「この取り組みの中で、『労使で平和のとりくみをしよう』という案が出され、次につなげる行動になった。取り組んで本当に良かったと思う。」と報告されました。